

## 令和5年度 第3回静岡市駿河区地域包括支援センター運営部会議事録

### 1 日 時

令和6年2月7日（水） 10時から正午まで

### 2 場 所

駿河消防署 4階会議室

### 3 出席者

（委員）古井委員、岩崎委員、稲垣委員、高山委員、望月委員  
（駿河区地域包括支援センター）7地域包括支援センター

### 4 事務局

駿河福祉事務所高齢介護課 高齢者福祉係  
保健福祉長寿局 地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 地域支え合い推進係

保健福祉長寿局 健康福祉部 福祉総務課

（重層的支援体制整備事業に関する説明のため高齢介護課から出席を依頼し、当日は事業担当者が出席した。）

### 5 傍聴者

1人

### 6 意見交換及び情報交換等（司会及び進行は古井部会長により実施。）

（1）各地域包括支援センターから令和5年度の活動状況について報告及び意見交換  
別紙 各地域包括支援センター部会シート参照

#### <八幡山地域包括支援センター>

包括：

まず事業概要1について、相談に対しては相談者自身で判断ができるように、包括から情報提供等を行っている。これに関して良かった点は、継続して情報共有が行われたことである。また、地域のケアマネや地域住民からの相談に対しては、関係機関と連携し対応を行っている。

次に事業概要2について、自立支援プラン型地域ケア個別会議を3回実施し、4回目は今月中に行う予定である。ケース対応型地域ケア個別会議も実施し、ケースの後追いの担当者会議にも参加した。また、大里高松包括主催の主任ケアマネ連絡会にも参加し、当圏域のケアマネや主任ケアマネもこれに参加した。有明団地の相談会は月2回実施し、「自宅ですつと」の講座は年4回行った。住民の困りごとは、生活支援コーディネーターを含めて解決方法の検討を行っている。3月には有明団地で地域ネットワーク形成にかかる地域ケア会議の開催を予定している。良かった点は、大里高松包括主催の会議に参加させていただき、色々な方との情報交換ができる場ができたという点と、有明団地内では生活上の課題に向けての対応を生活支援コーディネーターが主導して行えたという点である。今後

については、次世代の支援者の育成が課題である。

事業概要3については、居場所づくりの前段階として介護施設のスペースを借りて3月に相談会を行えるよう生活支援コーディネーターが調整してくれたため、そこに参加する予定である。良かった点及び課題は、地域から居場所の確保について希望があったため、場所の確保と、その場所に来てもらうきっかけ作りのため、地域の専門職による相談会を開催したいと思っている。地域での困りごとを相談会等で確認していきたい。

事前に質問をいただいた「皆さんの持っているベテランのスキルをどのように活用していくか」について、私自身もだんだん相談者と近い年齢になってきているため、病気の話や体のことで話をする中で、相談者との距離が近づくように努めている。2つ目は有明団地以外の地域で生活している人のサポートについて、有明団地は団地内に居場所が常設されているため、そこで常に困りごとを住民自身が表現できる環境が整っている。今後、他地域に展開するためには、まず困りごとの共有をする場が必要だと思い、居場所づくりや相談会ができればいいと考えている。3つ目に地域ケア会議が開催されてない理由について、なかなか開催のきっかけがつかめず、年1回は開催しているという状況である。4つ目に次世代の育成について、包括は個別ケースへの支援を基本として動いているため、次世代の育成は難しい所がある。個人の育成ならば、地域の自治会の方や民生委員から対象になりそうな方に話をしている。また、生活支援コーディネーターが企業に働きかけて、次世代の育成を考えていると思っている。当包括としてできることは、圏域内の施設（グループホームや小規模多機能型住宅介護等）の利用者と地域住民が交流できるよう、調整することである。地域で行われているジュニアボランティアの活動（野菜の収穫等）に施設利用者も参加させてもらい、そこにきている子どもの親世代に高齢者を知ってもらうことで、ボランティアの参加に繋がることを期待している。

望月委員：

先日、若年性認知症の方やその家族の方と話をする機会があった。その際、卓球ができるためそれを活かして地域貢献をしていきたいという話があった。支援者不足や次世代育成という課題があると思うので、認知症になっても活躍できる場（例えば相談員としての参加や居場所を支える側としての参加等）があってもいいのかな、またそういう所がどんどん増えていくといいのかなと思った。

岩崎委員：

全ての事業に共通していた所で、情報共有というキーワードが出てきた。どのようなことが共有され、それに対してどのような課題があり、来年度はこうしていきたいということを地域住民とどのように共有していきながらアクションを起こすかという展望があれば教えてほしい。

包括：

包括内での情報共有は当たり前だが、地域の中で困りごとを共有することが難しいと感じている。困りごとを言わない人が多い。有明団地には、生活状況が似ている方たちが住んでいるため、困ったことがあるとすぐに表現してくれる。尚且つ、居場所が常設されているため、そこで表現することができるという状況を見ると、雑談ができる場所があるといいのかなと感じている。そういう雑談ができる居場所づくりが、包括も介入しながら地域住民と連携してできればいいかなと思っている。今、森下地区の施設で1ヶ所、来年から相談窓口兼居場所を作ろうと話が出ている。また富士見地区でも、もう1ヶ所の公民館で居場所づくりをしていこうという計画がある。

古井部会長：

自立支援型地域ケア個別会議、「自宅ですっと」等、色々継続開催をしていたり、ケアマネや生活支援コーディネーターとの連携が非常によくできていると感じた。

岩崎委員からも意見があった共有している課題について、その困りごとがなぜこの八幡地区で起きているのかという要因分析をすることで、次年度に繋げてもらえればいいと思う。

#### <大谷久能地域包括支援センター>

包括：

まず地域ケア会議の実施状況について、自立支援プラン型地域ケア個別会議は2回の実施を予定しており、2回目は3月に実施する。圏域内の居宅介護支援事業所は4か所あるが、ケアマネの入れ代わりが多い。ケアマネは9名いるが、依頼先に大変苦慮している。ケース対応型地域ケア個別会議に関しては、第2回運営部会以降、成年後見の申し立てに関する会議を2件実施している。うち1件は長年地域住民から相談は寄せられていたものの、ケアマネと共に対応に苦慮していたケースである。静岡市支援センターみらいより主介護者である息子について情報提供をいただき関係者間で支援方法を検討することで、介護保険サービスの調整や成年後見の申し立て支援に繋がっている。ネットワーク形成等にかかる会議は、第2回運営部会以降、12月に1回実施し、明日に今年度最後の会議を予定している。事業概要2に重なる部分になるが、地域の支え合いメンバーが高齢化・固定化する中で、持続可能な支え合いの地域づくりを考えると、地域住民のみならず地域に関わる様々な機関の協力が必要不可欠であることから、まず住民が日々関わる団体や店舗、圏域の医療機関や事業所に対し困りごとや地域課題に関するアンケートを実施し、その結果を踏まえ、昨年10月の会議では民児協や圏域の主任ケアマネと地域の将来を考える、つまり「地域を知ること」をテーマに話し合いを行った。昨年12月の会議では、「地域の未来に種をまく」をテーマに、高齢分野にとどまらず障害や児童といった他分野の機関と、地域を支える主要メンバーに集ってもらい、アンケート結果や10月の会議を元に、今できていることと今後取り組めそうなことについて検討した。アンケートの中には、今すぐの解決は難しいと思われる意見が多かったこと、また今まで繋がりのなかった機関へ参加を依頼したということから不安もあったが、実際には「こんなことをしたい」「こんな協力があったらできるかもしれない」「こういう機会があったらまた参加したい」といった前向きな意見をいただいた。次年度は、より具体的な支え合い活動について、地域住民等と検討を重ねていきたい。またアンケート配布先には、この会議の議事録も配布している。

次に事業概要1について、今年度も民生委員と協力し、各自治会定例会にて区長たちに、組内の高齢者を少しでも気にかけて、民生委員や包括に繋げてほしいというみまもりたい活動への協力を依頼した。毎年この取り組みを継続することで、みまもりたいを風化させることなく活動を維持することができている。また、地域活動の場等で民生委員以外の地域住民から「最近〇〇さんがちょっと心配」という声をかけられることも多くなった経緯から、包括に関わった高齢者については、定期巡回訪問を行い早期介入やアウトリーチを積極的に行っている。地域の顔ぶれや雰囲気も変わる中、民生委員や組長になったら当たり前のみまもりたいがあり、当たり前のように活動を引き継いでいく、この当たり前を消さないように今後も包括は地域住民と福祉活動を協働していきたいと思っている。

事業概要2と3について、事前質問にもあった担い手不足についても交えながら説明する。介護予防を目的とした活動に関して、シニアクラブや自主グループに参加している方は、非常に勉強熱心で、「これを知りたい」「あれをもっと覚えたい」という声を多くいただくため、その都度要望を確認して包括による講座や専門職派遣による講座を開催している。どの講座でも、事前に講師には会場ごとの特性を伝え、質疑応答の時間を長く設けることで、自分事として考える機会になっている。一方で、地域の活動に参加された方へのアプローチについては、今後の課題となっている。そして担い手に関

しては、人口減少や少子高齢化が進み、住民だけでは支え合いの地域づくりを持続することが大変になってきている。今年度の支え合い会議を踏まえ、来年度は住民同士の支え合い活動の検討と並行して、学生やNPO法人、社会福祉法人、医療法人等、多様な主体によるインフォーマルサービスについて地区社協や生活支援コーディネーターと検討していく。またその一環として、地域資源マップの作成も予定している。

特に久能地区では担い手不足の問題が著しく、また地域活動の場への参加者も減ってきている。店舗や医療機関等もなく、子育て世代や若者が住みにくいこと、息子と高齢の母親という世帯が多く地域との繋がりが少ないこと、そして農家の方々には休みがなく 80 代でも現役で家業を手伝っていること等が要因として挙げられる。久能地区社協や生活支援コーディネーターと今後について検討を重ねる中で、現在の担い手には「なぜやってくれないんだ」という思いがあり、次の若い世代には「なぜやらなければならないんだ」という逆の思いがあることを解決しない限り、話が先に進まないという結論が出た。住民や地域の組織・機関と共に世代や属性を超えた顔の見える関係を作り、互いに意見し合えるような交流の機会として、3月に今の支え合いメンバーに加え、自治会や部農会、小学校やこども園等も含めた座談会を予定している。

稲垣委員：

意見ではないが、対策を色々考えてくださっていると思ったので、他地区に関してもこのように継続していただけたらいいなと思う。

岩崎委員：

どのくらいの数のアンケートが回収でき、次年度の活動のヒントになるような課題が出てきたのかを教えてもらいたい。

包括：

アンケートは数十件回収できた。

大谷地区と久能地区では非常に特性のはっきりした地区で、特に大谷地区はアップダウンの激しい地形になっているため、車がないと生活が大変な地域である。そこに長年住んでおり、高齢になって運転免許証を返納する、あるいは歩行が大変になり、地区から外に出る機会がなくなるといった傾向が非常に強い。アンケートの中にも、そういった人たちはたくさんいるが外に出してあげる手段がない、バスは通っているが玄関からバス停までが遠いといった、移動についての意見や困りごとが多かったように思う。また移動の問題に付随して、買い物に行けない、医療機関までが遠く感じるといった意見が挙げられている。

岩崎委員：

最近ニュースで見ると、行政を頼らずボランティア同士が送迎をするという形も出ているので、そういう活動を投げかけられると良い地区だと感じた。

古井部会長：

今の意見交換の中で、地区外への移動あるいは地区内であっても買い物や医療機関への受診等、具体的な課題を考えられていたため、次年度の展望の中でぜひ具体的なテーマとして盛り込んでほしい。

<長田地域包括支援センター>

部会シートの中から2点程を取り上げて報告する。

まず地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議について報告する。包括が考える課題を地域の関係機関と共有し、課題解決のための新たな資源の開発やネットワーク強化のきっかけ作りのために、

長田南学区と長田東学区で開催した。部会シートに記載はないが、川原学区でも今年 20 日に開催を予定している。出席者は、地域住民や介護・医療・福祉関係者以外にも、交番や図書館、薬局、地域のお店の店主等、地域包括ケアシステムに関わる方々に参加をいただき、地域課題について協議することができた。虐待事例等が長田南学区に多いということを含めデータで示した際、昔ながらの「介護は家族です」という意識がまだ根強く残っているので家族で抱え込んでしまっているのではないかとの発言が地域住民から聞かれたり、図書館長からは平日昼間は社会的な支援が必要と思われる方の来館が多いので、相談が必要だと前から感じていたという話が聞かれた。

長田南・東学区共に歯科医院の出席はなく、医療面との積極的な連携が図りにくいという課題がある。次年度は、会議の様子を広報する等の工夫をして、継続したネットワーク強化を図りたい。

2点目は、good at プロジェクトについて報告する。今年度の活動については、昨年度末にコアメンバーで集まり計画を立案している。生活支援コーディネーター、長田生涯学習センター、用宗老人福祉センター、長田包括がコアメンバーとして動いている。今年度は、計5回の活動を行った。内訳は、まず4月に長田東支え合いボランティアスタッフ 60名に対して行っている。これは、ボランティアスタッフからボランティアの幅が狭くなっていることで新たなボランティア内容を発掘したいという狙いで依頼を受け、行ったものである。次に5月、生涯学習センターみのり大学で1年生から5年生の50名に対して行った。7月は老人福祉センター、12月にも老人福祉センターで行っている。その都度アンケート調査を行い、参加者の声を拾いながら修正をしながら行う。例えば、名刺がなかなか書けなかった、もっと書きたい、今度はスタッフ側として参加してみたい等の意見が出た。

今年度の集大成として、11月に生涯学習センターで地域住民80名に対して行った企画が、非常に実りが大きかったと考えている。2週間に渡って行い、まず第1週目にはファイブグテストを地域住民に受けてもらい、そのテスト結果を提示しながら次週のgood atプロジェクトに展開した。認知機能のテストに関して、地域住民はとても興味関心があり、募集をかけるとすぐに席が埋まるような状態だった。また、テストの結果に対しても関心が高く、自分の認識のどの部分が欠けているのか、どこを補っていったらいいのかという点がわかった所でgood atプロジェクトに繋げ、「あなたの得意なことを活かし地域のために貢献することで、あなたの介護予防も図れますよ」という意識付けが非常に良くできたので、参加者の満足度も高い結果となった。更にこの活動を深めるため、生涯学習センターのロビーに、活動したい方を応援するブースを設けた。老人福祉センター、生涯学習センター、静岡市シルバー人材センター、社会福祉法人静岡会、市社協のボランティアセンターが参加してくれた。参加者が気になるブースに寄り話を聞くことで、活動に繋げることができた。その他、まだまだお金を稼ぎたいという方が社会福祉法人のドライバーに関心を持ってくださり活動に繋がる事例や、もっと趣味活動したいという方には老人福祉センターでの活動を案内し、その後老人福祉センターの登録者数が増えたとの報告も受けている。このような活動をとおして、コアメンバーの結びつきがこの1年間で非常に強くなった。また、レクリエーションとしてのgood atプロジェクトをさらに深めつつ、参加した方に次の活動への働きかけができたことや、次への繋がり先を提供する機会を設けることができたという点が、今年度躍進できた所である。次年度もコアメンバーと話し合いながら、活動をさらに深めていきたいと思っている。4月に学童保育のボランティアに繋がった高齢の女性が、毎週休まずに学童の宿題見守りのボランティアに継続して参加してくれているので、そういう方をさらに増やすと共に、good atプロジェクトにサポーターとして参加してくれる方も作っていきたいと考えている。

古井部会長：

事前質問にあった、川原学区での地域ケア会議についてはどうか。

包括：

2月20日に予定している。

望月委員：

good at プロジェクトという1つの事業から地域の人的資源を掘り起こし、活動に繋げていくというのはすごく良い取り組みだと感じた。支えられる側だけじゃなく、自分が支える側にも回るという循環する地域づくりはとても有効的な取り組みだと思う。

岩崎委員：

参加者が繋がりたい活動先は、どこかに可視化されているのか。どのようなことが要求されていて、自分がどの程度協働できるかという、要求されているものがわかるものはあるのか。

包括：

各テーブル5～6人のグループで名刺作りを行う。包括はファイブコグテストの結果を知っているため、参加者の強みや弱みがわかった状態で、各テーブルにサポートにつくことができる。包括から各ブースに待機している繋がり先の方たちに、「あの方はこういうことができるようだ」という情報を入れることで、繋がり先の方たちが参加者をスカウトしたり、ボランティア内容を説明したり、その場でやりとりをしていく。地域にある繋がり先リストも作ってあるので、それも活用しながら、個々にお知らせしている。

岩崎委員：

どこかでエントリーをするという方法ではなく、その会議の中で行うということか。

包括：

窓口である包括や生涯学習センター等に活動を希望する方が来ると、紹介するという方法を取っている。

岩崎委員：

震災の時のボランティアは窓口が1つに決まっており、そこで要求されている活動を行うとのことだったので、いつでもどこかに行くと要求されている物を見られるのか聞きたかった。

包括：

メインとなる母体が今後は必要だと思っているが、今の所はコアメンバーが担っている状況である。

#### <丸子地域包括支援センター>

事業概要1と4はリンクしている部分があるため、まとめて報告をする。包括内で情報共有をしながら各々の職員の対応能力の向上等に努めつつ、ケアマネからの相談対応も一緒に行っている。それを踏まえた上でケアマネ支援として、圏域内に1人ケアマネの事業所がいくつかあり、なかなか他のケアマネと相談する機会がないケースが多くあると思い、今後は1人ケアマネの相談対応も一緒に行っていきたいと考えている。具体的には、ケアマネに包括まで来てもらい、一緒に事例を検討している。また、長田包括と合同で2月13日にケアマネ向け勉強会を実施する予定である。これに関しては、3年かけて継続的に行う。今月は面接技法に関する勉強会を考えている。

事業概要2については、長田包括と合同で虐待の勉強会を実施している。これには駿河区高齢介護課にもパネリストとして参加してもらい、虐待対応について説明をしていただいた。各事業所からは虐待への対応について理解できたという反応をいただいているため、継続して行っていきたいと考え

ている。また、チラシ等で人権についても周知していきたいと考えている。

事業概要3について、丸子包括では長田西地区が、昨年度チームオレンジの活動を行っている。ただ今年度は、そこに対してうまく働きかけができなかったため、来年度は認知症サポーター養成講座等を行いつつ、地域の郵便局や薬局等とのネットワークを再構築していきたいと考えている。長田西地区は高齢者に関する活動に対し、活発に動いてくださっている。北地区も最近は困りごとについてアンケートを取っており、地域住民の支え合いネットワークを作っていこうという動きが見られているため、包括も一緒に動いている。北地区は、子育て世代も活発に動いているため、そちらへの包括周知も考えている。S型デイサービスにも積極的に参加し、介護予防教室や詐欺被害の予防教室を実施した。事前質問として挙がっている、外に出て来られなくなった方への対応については、高齢者との繋がりがある元民生委員のS型デイサービススタッフが定期的に声をかけたり、継続的に参加している人が参加できなくなった人へ声かけをしてくれている。それでも支援が必要だという方については、包括に相談を繋いでくれる。

事前質問に挙がっている地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議が1回しか行われていないという点について、長田西、長田北地区共に地域住民に力があり、定期的に懇談会等を開いている。その際に地域の困りごと等を話し合う機会があるため包括職員もそこ参加しているが、共催という形ではないため実施回数としては挙げられていない。来年度は共催という形で参加することで、実施回数の増加に繋がると思っている。会議を増やすと地域住民の負担になってしまうため1回という結果になっているが、地域の困りごとに関しては地域住民で話し合われている。

古井部会長：

地域ケア会議に関して、懇談会を定期的にやっているためそこと共催していくという話があったが、自主的な懇談会はどのような経緯で開催されているのか。

包括：

私達が先日参加したのは長田西地区で行われたものだが、それは社会福祉協議会が旗振り役を担い、災害のことや地域活動（居場所づくり等）について報告をしつつ、福祉という視点で今後どのように活動を行っていくかという話し合いの場が持たれた。

古井部会長：

地域でそのような懇談会があるならば、その懇談会は生かしつつ、地域ケア会議として包括が目的やテーマ性を持って主催したい場合は、時間帯を少し工夫するのはいかがか。既存の懇談会の趣旨は生かしつつ、地域包括支援センターとして求めるものについては、共催ではなく例えば時間を区切ってやらせてもらう等の工夫をしていただけたらいいと思う。

高山委員：

1人ケアマネの事業所に私達が相談に行った時、すぐに対応してもらえるのか、横のネットワークはあるのかといった点が心配である。利用する側に不安がない対応であってほしい。

包括：

丸子包括には、主任ケアマネの1人ケアマネ事業所が4か所ある。その方たちは、自分たちで横のネットワークを作っている。自分がすぐに動けない時は、あの方に頼もうということは準備されているが、日頃からの情報共有は個人情報のためなかなか難しい。ただし、包括に連絡をくれれば、ケアマネと連絡を取ったり、時には包括が代わりに動いたり、利用者に迷惑がかからないよう日頃から連携して行っている。

古井部会長：

自主的なネットワークや利用者から問い合わせあった時の対応等について、高山委員の意見を参考にしつつ、利用者や家族に伝える機会があってもいいと思う。

<大里高松地域包括支援センター>

まず地域ケア会議について、自立支援プラン型地域ケア個別会議は2月に4回目を予定している。ケース対応型地域ケア個別会議は、資料には4回となっているが正しくは5回開催しているため、訂正をお願いしたい。地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議は2回開催した。

次に事業概要1について、重層的支援会議に事例を提出し、支援計画を関係機関と共有することができた。重層的支援会議に事例を提出したことで、今までなかなか動かなかつたケースが解決に結びついた点は、よかったと思う。しかし、同じケースで地域ケア会議を複数回開催しても解決に至らず、その他会議という形で、事例検討等を重ねても解決が難しいものも多い。次年度の展望としては、高齢介護課のみならず関係各課との協働を挙げている。事前質問で、「高齢介護課以外の生活支援課等の介入はフローのようなものがあるか」といただいたが、特にフロー図はない。相談が来た時には、個別に相談をしていく。私達のような民間事業所の関係機関は、何か課題があればすぐに集まり相談できるが、行政に会議への参加を依頼するためには目的の整理等準備が必要である。今後は、会議開催の目的を明確にし、生活支援課や障害者支援課等の関係機関には、地域ケア会議に参加していただくということを積み重ねていきたい。

事業概要2について、認知症サポーター養成講座をとおして図書館や児童クラブ、高校や高齢者施設等、あらゆる年代に働きかけることができた。包括職員に2名のキャラバンメイトがいるため、高校等から依頼があれば適時対応ができています。また、色々な祭りにも参加して、PRを行った。ウエルカフェでの相談会を今年度6回開催した。来年度はリハビリ専門職にも来ていただき住民に向けた活動を検討することで、専門職と地域住民が繋がる機会の創出を考えている。

事業概要3について、南部学区では地域資源について、中田学区では終活とACPについて、地域の方々と専門職（ケアマネ、デイサービス、グループホーム、小規模多機能型居宅介護のケアマネ、薬剤師等）が参加するグループワークを実施した。

事業概要4については、先ほど八幡山包括からも報告があったとおり、八幡山包括と共に主任ケアマネ連絡会を開催した。まずは地域資源を確認し、最後には地域資源マップを作る動きになっている。このような活動は来年度にも繋げていきたいと思っている。

稲垣委員：

八幡山包括と共同で主任ケアマネ連絡会を開催したことについて、中田学区は八幡山包括と大里高松包括で重なっている地区があるため、民生委員としてはこのように連携してくれると助かる。

また、重層的支援会議について、出席したメンバーを知りたい。

包括：

提出したケースに関係している機関が出席する。今回のケースは、大里高松包括、子育て支援課、小学校（先生とスクールソーシャルワーカー）、子ども・若者相談センター、東海道シグマ、高齢介護課が参加した。福祉総務課が調整してくれた。重層的支援会議には、課題解決のために必要な関係機関が召集されるため、ケースによって参加する機関は変わると思う。

稲垣委員：

今はコミュニティスクールがあるので、そういった機関とも連携ができるといい。



岩崎委員：

事業概要3について、南部学区では地域資源について、中田学区では終活とACPについてということで事業を展開されている。就活について、書いて残すような、具体的に題材として使っている共通の物はあるのか。

包括：

今回は、終活事業をやっている社会福祉法人の方に講師を依頼した。静岡市でも終活ノートとして提示されているパンフレットがあるため配布した。現在、新しい物を作成中と聞いている。また、県のホームページには各市町の物がダウンロードできるため、そういった情報も提供している。

岩崎委員：

昨日、市主催の保健所運営協議会に出席した際、自殺企図の話題が挙がった。震災に遭われた方々も同様だが、この先どう自分が活動していけばいいのかという余命と現状とで向き合っていくと自殺企図に繋がる方が非常に増えているという話だったため、参考に聞きたかった。

<小鹿豊田地域包括支援センター>

まず地域ケア会議の実施状況について、自立支援プラン型地域ケア個別会議は2月開催分も含めて計4回実施する予定である。ケース対応型地域ケア個別会議は3回の開催である。地域ネットワーク形成等にかかる地域ケア会議は、2月21日に自宅ですべてミーティングを予定している。ACPについて開業医と看護師を招き、地域住民と話をする予定を組んでいる。

事業概要1について、今年度は認知症サポーター養成講座や出張かけこまち等を多数計画し、認知症の啓発活動を行った。総合相談の個別ケースからも認知症の問題に関しては、自動車の運転や金銭管理等、解決が難しいことが増えてきているため多方面から支援を行っていききたい。次年度は、高齢者向け優良賃貸住宅に向けて情報収集のアンケートを行い、見守り体制やネットワーク形成に繋げたい。

事業概要2について、S型デイサービスや居場所活動の場で、フレイル予防の話をしたり健康相談会等を実施した。また、回覧板でチラシも配布した。杏林堂薬局でのでん伝体操グループの立ち上げについては、会場管理が難しく開催の目途は立っていない。健康相談会で身体状態を数値化して示した点は、参加者からの評判が良かった。次年度も継続し、地域住民の健康意識の向上を目指していく。

事業概要3と4について、初めて清水銀行での相談会をボーナス月の6月と12月に行った。PRはできたが、その先の相談までには繋がらなかったのが今後の検討課題である。ケアマネの勉強会では、民生委員と話し合いを行い、顔の見える関係づくりを目指した。以前よりは距離が近づき、連携できる体制づくりに繋がったと思っている。

認知症のジュニアサポーター養成講座について、まだ子どもに向けた連携という面では不十分なので、今後は小学校等との連携を検討していきたい。

古井部会長：

見守りネットワーク構築や一人暮らし高齢者の地域課題が具体的に4つ（フレイル、軽度認知症、孤独死、身元保証）挙げられている。取り組みについて、もう少し詳しく教えてもらえるか。

包括：

東静岡駅の近くの高齢者向け優良賃貸住宅はケアマネがいても支援が必要なケースとして時々挙がってくるため、まずはアンケート調査を行いどういう方が住んでいるのか等の現状把握を行い、連携体制を構築していく。

古井部会長：

地域でどう取り組むかという視点で、具体化していけるといいと思う。

<大里中島地域包括支援センター>

地域ケア会議の実施件数は、自立支援プラン型地域ケア個別会議は今年度3回の実施で終了した。ケース対応型地域ケア個別会議は9回実施した。

今年度、当包括はかなりの職員不足だった。部会でも訴えさせていただき、地域包括ケア・誰もが活躍推進本部、高齢介護課、他包括の皆様にも本当にご支援いただいた。1月に2名が配属され、5名体制で業務を行っているが、職員が慣れるまでは色々と不備があるかと思う。本当に皆様のご協力と有難い励ましがああり、何とか持ち堪えることができたと思ひ、この場を借りしてお礼申し上げたい。ありがとうございました。

では、事業概要1から説明する。昨年度も1つの銀行で行ったが、今回新しく声をかけてくれた銀行があり、チラシ配りや声かけを行った。実施した銀行の行員が積極的にアプローチしてくださり、包括あてにも日々相談を入れてくれるようになったため、顔の見える良好な関係ができたと思ひ。来年度は郵便局へのアプローチも考えたい。

事業概要2については、主任ケアマネの会を核として行っている。当該会議は4回開催することができた。圏域のケアマネたちが、自分たちがやりたいテーマについて取材をし、包括は後方支援という形を取った。ただ、少しケアマネの負担が大きかったこと、包括の後方支援が手薄になってしまったことで、回によっては盛り上がり欠けたり、ケアマネたちの求めるものと主催されたテーマが少しずれていたりということがあった。来年度に向けて、ケアマネたちの積極性が少し落ちてしまった点が課題である。今年度は地域の専門職の方々と一緒に、民児協やS型デイサービスに同行参加をすることができた。これの目的は、地域資源の体感という点に絞っている。地域の専門職種が地域活動に参加することは業務上の負担が大きく、メリットも少ないという点で継続が難しいのではないかと課題がある。事前質問にあった、地域の専門職種の負担の大きさについては、どの専門職種も満遍なく負担が大きい(ケアマネ、理学療法士、薬剤師、栄養士等)。理由としては、本来の業務を調整して時間を空ける、あるいは本来の業務は日程の調整ができないため自分の休日に地域活動に参加していただくためである。尚且つ、地域活動に参加しても手当はなく無償での活動になるという点で、厳しい現状がある。特にケアマは、ケアマネの人数は減っているが、1人のケアマネが抱える件数は多くなっているという状況にある。地域活動に参加するメリットとして、自事業所のアピールができることを推してきたが、ケアマネは既にこれ以上の件数を受けられない状況にあるためメリットを感じないという課題がある。また、主任ケアマネの会についても業務時間を削って参加している。こちらについては主任ケアマネの更新研修に必要な要件に算定できるというメリットはあるが、それでもなかなか厳しい状況にある。

事業概要3について、大里西地区に居場所づくりや普段からの地域の見守り等、非常に活動的なボランティア団体がある。毎年、包括が認知症の勉強会を開いたり、地域ケア会議を開催したりしていたが、この度地域包括ケア・誰もが活躍推進本部職員からチームオレンジについて提案された。ボランティアメンバーと話し合いを進め、12月にチームオレンジになるために必要な研修を受講することができた。日頃の活動を市から評価されたということで、非常に好評だった。また、認知症サポーター養成講座を今年度初めて児童クラブで行った。受講対象者が幼いため、認知症の捉え方、指導方法が非常に勉強になった。認知症は病気ではなく、髪の色が違うといった多様性の考え方の延長だと

いう説明を受けた。包括としては新鮮な気持ちで捉えられ、児童への認知症サポーター養成講座は成功だと評価している。

次に事業概要4について、障害分野等の機関と何度も地域ケア会議を行い役割分担をするが、他機関がその役割を遂行していない、支援が止まるという課題が以前からあり、果たしてこの課題は解決されるのだろうかと感じている。また、事前質問にもあった地域ケア会議の開催等への負担について、例えば自立支援プラン型地域ケア個別会議は、形骸化していると感じている。事例を提供してくれるケアマネがないことに加え、書類の準備にも時間がかかる。多くの包括が自分たちで担当しているケースを提出し、回数を重ねている。当該会議にはアドバイザーとして出席している理学療法士や薬剤師等からアドバイスいただくが、この会議自体が問題の解決を目的としていないので、アドバイス止まりになってしまう。何のために開催するのかというモチベーションの部分で引っかかりがある。ケース対応型地域ケア個別会議については、役割分担をしてもその先に進まない、記録物の多さといった点が課題であると感じている。

稲垣委員：

ボランティア団体のスタッフ数は減少していないか。維持できているか。

包括：

正確な人数は把握していないが、25名前後が所属している。年齢は、比較的若い方もおり、人数が少なくなっているというイメージはない。民生委員を引退された方もメンバーに入ってくれる等、この団体に限って言えば良い状態であると思う。

稲垣委員：

モチベーションを高められるような後押しをお願いしたい。

古井部会長：

時間の都合上、意見交換は以上とさせていただきます。部会委員からの意見は「部会委員からの助言・提言シート」にもまとめられているので、ぜひ地域包括支援センターの皆様には他圏域の活動も併せて参考にさせていただきたい。

## (2) 第2回駿河区地域包括支援センター運営部会におけるアンケート集計結果の共有 別紙

令和5年度第2回静岡市駿河区地域包括支援センター運営部会アンケート集計結果参照

古井部会長：

本日、今年度のまとめを行うにあたり、事務局より情報提供として10月に聴取したアンケートの集計結果を共有していただく。事務局から説明をお願いしたい。

事務局：

別紙資料に沿って説明。

(3) 令和5年度駿河区地域包括支援センター運営部会のまとめ

別紙

部会委員からの助言・提言シート【まとめ】及び令和5年度駿河区地域包括運営部会報告書(案)参照

古井部会長：

3月11日に行われる市全体の運営協議会に向けての協議ということで、事務局で作成した報告書案をたたき台として考えたいと思う。報告書の内容について事務局から説明をお願いしたい。

事務局：

別紙資料に沿って説明。

古井部会長：

委員の皆様から質問や感想、意見をお願いしたい。

部会委員：

発言なし。

古井部会長：

部会として承認を得て協議会に報告するため、部会委員の皆様には承認の場合は挙手をお願いしたい。

部会委員：

当日出席した部会委員全員が挙手。

古井部会長：

全員から承認をいただいたので、こちらの内容で地域包括支援センター運営協議会に報告する。

(4) 情報交換 【テーマ】重層的支援体制整備事業について

別紙

重層的支援体制整備事業の成り立ちと事業内容について及び事例シート(当日回収)参照

古井部会長：

今回のテーマは、来年度から本格実施が予定されており、今年度は駿河区がモデル地区として活用している重層的支援体制整備事業とした。具体的に部会の中でも色々と話題が提供されていたが、この事業の成り立ちや概要を担当課に説明していただいた上で、活発な意見交換ができればいいと思う。

大里高松地域包括支援センターが、重層的支援会議に事例を提供しているため、事例概要や会議の進行、助言内容やその後の対応及び感想等の共有を図りたい。限られた時間の中での情報交換ということで、あくまでも課題の解決ではなく情報交換の場ということにさせていただき、来年度に向けて重層的支援体制整備事業のイメージを共有していきたい。

健康福祉部福祉総務課：

別紙資料に沿って説明。

古井部会長：

重層的支援体制整備事業に関する説明で、部会委員の皆様から何か質問はあるか。

部会委員：

発言なし。

古井部会長：

では、続きまして大里高松地域包括支援センターから事例に関する報告をお願いしたい。

大里高松包括：

<事例の内容について>

別紙資料に沿って説明。

<重層的支援会議の様子について>

重層的支援会議には各関係機関が参加し、ファシリテーター（進行役）が参加者と共にその場で課題を抽出し、今後の支援や役割分担を決めていった点が非常に印象的だった。包括でもこのケースについては、個別ケース会議等により解決に向けてチャレンジしてきたが、行政の関係各課への参加依頼に難航してきた。包括はアウトリーチという意識で活動しているが、行政は申請主義という部分があり、相談がないから参加できないという返答だったこともある。そういった意味では、行政機関の福祉総務課が事例の整理や、参加者の要請を取りまとめてくれるということに、当該事業の意味があると思っている。また、そうでないと包括が行っている地域ケア個別会議と変わらなくなってしまう。

今後も、家族の複合的な課題に福祉的な視点で介入できるという点で、当該事業の強化は必要だと思う。

古井部会長：

時間があれば、重層的支援会議に参加した地域包括支援センターからも感想を聞きたいが、時間が迫っているため部会委員の皆様から質問や意見はあるか。

部会委員：

発言なし。

古井部会長：

重層的支援会議と、地域包括支援センターが主管する地域ケア会議、あるいは虐待の疑いがある場合に行う虐待対応ケア会議等々、高齢分野では多くの会議が主催されているため、それらとどう繋がっていくのが大事だと思う。地域ケア会議は、個別ケースの検討、地域づくりやネットワークづくりの検討等、色々な目的で開催されているので、それらの会議と重層的支援会議がどう連携していくのか、あるいは協働していくのか、地域包括支援センターのみならず地域住民にとっても同じような会議が重なるという印象にならないように整理をしていく必要がある。

また、高齢分野ならば地域包括支援センターと高齢介護課は連携や協働がしやすいが、他分野の行政機関（児童や障害等）に対しての協力依頼について具体的な問題点や課題点が指摘されていたため、引き続きご意見をいただきたい。

今年度3回の部会での協議を通して意見交換ができ、今回は具体的に課題をまとめたため地域包括支援センター運営協議会にて報告をしたいと思う。また、今回の協議が次年度の各地域包括支援センターのより良い活動に繋がることを期待している。